

2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 4 月 21 日

所属	商経学部	職名	専任講師	氏名	小野 聡
研究課題	気候変動の地域的適応のための空間シミュレーション				
研究キーワード	プランニング、リスク、気候変動、シミュレーション	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	13.気候変動に具体的な対策を	11.住み続けられるまちづくりを	該当なし	該当なし	

1. 研究成果の概要

本研究は、災害や気候変動などの不確実性が高まる現代社会において、予測情報が人々にどのように受け取られ、行動や学習に結びつくのかを、シミュレーションと対話を軸に検討したものである。理論的考察では、台風の「上陸」という表現の変遷や気象予測の可視化を題材に、先端技術がいかにして不確実性に輪郭を与え、「動きのある表象」として人々の認知に入り込むかを分析した。加えて、大規模アンケート調査とクラスタリング分析により、AI による予測情報を信頼する人々の傾向や、それに影響を与えるリスク認知・価値観の在り方を明らかにした。

これらの成果を踏まえ、本研究はシミュレーションを単なる技術的予測ではなく、人々がリスクや社会的課題を自分事として理解し、対話や協働を通じて考えるための「媒介」と位置づけた。特に、防災学習における取り組みとして、学生による防災計画の追体験、住民と共に避難ルートを歩きながら課題を共有するワークショップ、そして大学・地域・企業が協働する防災イベントなどを通じて、シミュレーションが現実の行動や議論を生む場となる可能性を検証した。予測技術のリアルタイム化が進む一方で、そこに解釈・判断・行動を接続する「学びのプロセス」をいかに組み込むかが重要である。シミュレーションと対話を介した社会的学習の枠組みは、今後の風土論や社会システムの理解にも新たな視座をもたらすと期待される。

2. 著書・論文・学会発表等

(できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載)

【著書・論文 (査読なし)】

小野聡 (2025) 「予測社会の風土論—「不確実性」への関心は人間に何をもたらすか」、寺田匡宏編『フューチャー風土 ひと、いきもの、思考する機会が共存在する未来』、京都大学学術出版会、pp.535-555

小野聡 (2025) 「「予測社会」における防災学習の場としての大学」、吉竹弘行ら編『安全・安心な都市・地域づくり』、CUC サポート、pp.80-91

3. 主な経費

【学会年会費・参加費】日本計画行政学会、環境情報科学センターなど各学会年会費に充てた

【調査費】現地調査や研究会参加のための出張旅費に充てた

【書籍代】数理シミュレーション、計算社会科学に関する各種書籍の購入に充てた

4. その他の特筆すべき事項 (表彰、研究資金の受入状況等)

(本文は2ページ以内にまとめること)